

# 出光興産、兵庫県姫路市で初の蓄電所を稼働 1万5000キロワット

2025/10/10 15:26 日本経済新聞電子版 346文字

出光興産は10日、送電網につないで充放電する電池群「系統用蓄電池（蓄電所）」の稼働を兵庫県姫路市で始めたと発表した。蓄電所を動かすのは同社として初めて。出力は1万5000キロワットで、蓄電所としては大規模な部類に入る。太陽光や風力など再生可能エネルギーの発電量の変動を補う役割があり、脱炭素に向けて堅調な需要が見込めると判断した。

レノバ、長瀬産業、三井住友ファイナンス&リース子会社のSMFLみらいパートナーズ（東京・千代田）と共同で開発した。2003年に石油精製を止めた出光の兵庫製油所の跡地を活用した。



出光興産などが運転を始めた蓄電所（兵庫県姫路市）

電池の運用は出光が担う。電力需要の調整力を売買する市場のほか、卸電力市場での価格差取引で稼ぐ。出光として今後の蓄電所の開発計画については「現時点で決まったものはない」（同社）としている。

## 【関連記事】

- ・ 出光興産、米新興Vycarb社に出資 大気中のCO2回収技術取り込む
- ・ 再エネ蓄電所開発、レノバが2000億円投資 国内の電力安定供給へ
- ・ 出光やレノバなど、系統用蓄電池に参入 再エネ有効活用

許諾番号30105851 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。  
本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。  
本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。  
Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.